



視点を定め、 バランスを身につける

「それぞれの企業と立場に自信を持て」

秋季講演会での塾主のお言葉に、気を引き締めなおした我々塾生。

凄まじい勢いで進化する現代社会に身をおき、日々真剣勝負を繰り返さなければ生き残ることさえままならない我々経営者の、今なすべき行動とはなにか… 私たちは再び塾主に問いかけた。

「まず、目標を持つこと」

不況と言われ続けて久しいこの時代、多くの人々が自分のポジションを明確にできずにいる。

こんな時にこそ必要なことは、「まず、目標を持つこと」だと、塾主はお話くださった。

目標が定まっていれば、自分が何をすべきかがよくわかる。そうすれば、物を見る視点が変わってくるのだ。同じ物事を見聞きしても、自分の立場をはっきり認識していれば、そのビジネスに役立つ方向が見えてくる。それが、秋季講演会の第一声「立場に自信を持つこと」であった。

世の中は多くの情報であふれている。経営者はその中で、自分に必要な情報を選び取らなければならない。多くのことを知っている必要はないのだ。自分のビジネスに役立つことを知っているとしても、それは、「単なる物知り」の域を出ないのだ。

塾主の場合、「塗料」をベースに、アイデアは広がっていく。例えば、建築現場の工期を短縮するための基礎工事の方法、あるいは環境問題。塾主の頭はやわらかだ。そして、この広がり方こそが、度々お話に登場する「アンカーリング」。錨を下ろし、そこからぶれない考えを持つことである。

感性と経済のバランス

そして、もう一つ必要なこととして、「バランス」についてもお話くださった。

人間のこれまでの発展は、儲かればよい、という経済至上主義に偏っていた。しかし、このままでは、世界は滅びるとおっしゃるのだ。

人は文明が発展すると共に生活を集団で行うようになってきた。すると、そこには、公害が発生する。歴史の遺物であ

る古代エジプトのピラミッドも、木々を伐採し、砂漠を広げる原因となった。現在でも、山々を切り崩してコンクリートをつくっている。人が考える地球の開発とは、実は地球の破壊に他ならないのだ。昨今、環境問題は社会でもっとも取り上げられる問題である。しかし、大きな世界の環境については、自分ではできることとできないことがある。

そこで、誰でもが初めにできることが、「バランス」感覚を持つことと教えてくださった。

個人の経済活動が、提案者にのみメリットがあるものにするのではなく、世の中にメリットがあるようになればよい。人間としての感性と経済のバランスである。何ができるかを、まず、自分の立場から思うこと、そこから全てが始まるのだ。塾主の環境問題への取り組みの原点は、「人間であること」であった。自分の代で人間が終わるのではない。そうであるなら、地球のためにマイナスになることは減らしたいというお考えなのだ。

最後に、やさしい笑顔でお話くださったのは、ご自宅の庭にある桜の木のお話だった。

お休みの日に、じっと見つめると、新芽が伸びる瞬間を見ることができるとおっしゃる。それは、ほんの一瞬のごとである。人間の成長も同じ。伸びるときは一瞬。その瞬間に悟りが開けるのだ。

「本を何冊読んで勉強をしても、成長が一瞬に訪れることなどわかりませんよ」とおっしゃった。

自分の目標に向かい、しっかりと地に足を踏み下ろし、周りを見渡せば、おのずと必要な情報を選ぶことができる。そして、そういう経営者が増えれば、バランスの取れた経済活動を進めることができる。時代の流れはそう動いている。明るく、温かな気持ちになれるお話であった。